

シンガポール・LTA (陸運庁) から地下鉄電車を受注

川崎重工は、Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte.Ltd. (以下「KHI-SIN」) および中国の南車青島四方機車車両股份有限公司(以下「南車四方」)と共同で、シンガポールのLand Transport Authority (以下「LTA」、陸運庁)から、アルミ車体の地下鉄電車132両(6両×22編成)を受注した。本案件では、川崎重工がプロジェクト全体の統括、設計、台車や主要機器の供給を行ない、南車四方が完成車両の製作と工場試験、KHI-SINが車両の基地搬入や納入整備、現地試験を担当し、



2011年から2012年にかけて順次、納入の予定。川崎重工は、LTAにはこれまで合わせて522両の地下鉄電車の納入実績がある。今回の受注は、川崎重工の契約履行能力、納入車

両の品質・良好な運行実績、ならびに本入札で提案した技術・価格が総合的に高く評価されたものである。

世界初、船用電子制御ディーゼル機関での過給機カット運転を実用化

川崎重工は、温室効果ガス(CO₂など)の削減や、昨今の燃料油価格の変動に 대응する技術として、世界で初めて船用電子制御ディーゼル機関において過給機*1カット運転を実現するシステムを実用化した。

本システムは、3台以上の過給機を装備する主機関で部分負荷運転を行なう場合、1台の過給機を作動させないことにより、掃気圧、空気圧縮圧、燃焼最高圧を上昇させ、熱効率の向上を図って燃費を低減する運転を実現する

ものである。2008年末に、「川崎-MAN B&W 12K98ME型主機関」の陸上運転において本システムの試験運転を行ない、最大約4%の燃費低減を実証した。なお、本システムの初号機は、2008年度末就航の川崎汽船向け「8000TEU*2コンテナ船」の主機関に搭載された。

*1:エンジンに空気を圧縮して強制的に送り込む装置。
*2:コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分。



川崎造船が新造船を相次いで引き渡し

川崎造船は、KAW1601 SHIPPING S.A. (ケーエーダブリュ1601 シッピング エスエー)向けに自動車運搬船を、KAW1612 SHIPPING S.A. (ケーエーダブリュ1612 シッピング エスエー)向けにVLCC(大型タンカー)を引き渡した。

●5,000台積み自動車運搬船「BANGKOK HIGHWAY (バンコク ハイウェイ)」

中国南通市の南通中遠川崎船舶工程有限公司(NACKS)において引き渡した。

本船は、倉内に12層のカーデッキを有したロールオン・ロールオフ型自動車専用運搬船である。大型車も通行可能な2条の倉内ランプウェイを各甲板内に設置し、船尾のスターンランプと船体中央部右舷に設けられたサイドランプを介して、陸上から本船内まで自走で効率よい荷役が可能だ。また、主機関のモード選択により、燃費低減、排ガス性状の改善が可能な環境対

策を施している。

■主要目

全 長:179.99m
長さ(垂線間):167m
幅 (型):32.20m
総 ト ン 数:4万8,927t
自動車搭載台数:5,036台

主 機 関:川崎-MAN B&W
7S60ME-C型ディーゼル機関
×1基
連続最大出力 1万2,500kW
×99回転/分
航 海 速 力:約20ノット

●VLCC「SAKURAGAWA (サクラガワ)」

坂出工場において引き渡した。本船は、川崎造船が開発した最新鋭タンカー

で、マラッカ海峡を通航でき、日本の主要パースに入港できる船としては最大級の積載能力を有している。燃料油タンクおよびポンプルームが貨物タンク同様に二重船殻構造となっており、万一の際における海洋汚染防止対策を施している。

■主要目

全 長:332.93m
長さ(垂線間):324m
幅 (型):60m
総 ト ン 数:16万68t
荷 油 槽 容 積:35万1,618m³
主 機 関:川崎-MAN B&W
7S80MC-C型ディーゼル機関
×1基
連続最大出力2万7,160kW
×76回転/分
航 海 速 力:約15.58ノット

「BANGKOK HIGHWAY」



「SAKURAGAWA」



福岡放送向けの「川崎式BK117-C2型報道ヘリコプター」を納入

川崎重工は、福岡放送向けとなる最新鋭の「川崎式BK117C-2型ヘリコプター」を、ユーロコプタージャパン(株)に納入した。本機は、「C-2型」のテレビ局向け「報道ヘリ」としては初めての納入で、ユーロコプタージャパンT&E社にて報道機器を取り付けた後、機体運航を担当する西日本空輸(株)に引き渡された。

「川崎式BK117ヘリコプター」は、川崎重工が欧州のMBB社(メッサーシュミット・ベルコウ・ブロウム社、現EADS社;ユーロコプタードイツ社)と共同開発したもので、物資・人員輸送、消防・防災・警察、ドクターヘリ(救急救命)など多用途に活用されている中型双発機である。優れた安全性・操縦性、コンパクトな機体形状、担架などの長尺物の搬出入に適した機体後部の大型の観音開きドアなどが特長で、すでに国内で約140機、全世界で600機以上の販売実績を誇るベストセラー機である。

「C-2型」は、従来型の特長を生かしながらキャビンスペースの約30%拡大、航続距離の



約30%向上、騒音の低減などが図られており、多様な報道器材の搭載、取材範囲の拡大、環

境への配慮が求められる「報道ヘリ」に最適なヘリコプターである。

北海道ガス向けに国内最大級の地上式LNGタンクを受注

川崎重工は、東京ガス・エンジニアリング(株)から、北海道ガス石狩LNG基地向けのLNGタンク建設工事を受注した。本基地は2008年8月に地盤改良に着手しており、2012年に運用開始の予定。

受注したLNGタンクは、地上プレストレストコ

ンクリート(PC:予め圧縮応力を高めたコンクリート)外槽式LNGタンク(内槽内径:約80m、貯槽高さ:約55m、内槽設計温度:マイナス162℃、容量:18万KL)で、地上式LNGタンクとしては国内最大級である。石狩LNG基地は石狩市の新港に位置し、北海道初の大型外航船の

出入港が可能なLNG(液化天然ガス)受入基地だ。本基地は、LNGの受入・貯蔵・気化・払出しに関する業務を行ない、道内への天然ガス供給を行なう。

洋上プラットフォーム向けガスタービン発電設備を初受注

川崎重工は、日本海洋石油資源開発(株)が新潟県・岩船沖油ガス田に設置するプラットフォーム洋上ガス昇圧設備向けに、ガスタービン発電設備を受注した。過酷な使用環境である海洋石油・ガス掘削プラットフォーム向けとしては初めての受注である。

新潟市の北東約30kmの沖合いに位置する岩船沖油ガス田は、国内唯一の海洋油ガス

田で現在、原油・天然ガスの生産・開発が進められている。

受注した「PUC30型ガスタービン発電設備」は、自社開発のガスタービン(M1A-13)2機を搭載した軽量・コンパクトな発電設備(発電端出力:2,900kW/60Hz、燃料:天然ガス)で、運転開始は2011年3月の予定。



国立極地研究所に縦軸型風力発電装置を納入

川崎重工グループの日本飛行機(株)は、情報・システム研究機構国立極地研究所(以下、極地研)に、出力20kWの縦軸型風力発電装置を納入した。

本装置は自社開発で、商用としては初めての納入となった。日本飛行機は極地研から2008年10月に受注し、秋田県にかほ市の仁賀保高原風力発電所に隣接する市有地に建設した。今後はここで極地研により、南極昭和基地での環境保全および化石燃料消費量削減を目的とした自然エネルギー利用の一環として、同基地への設置に向けた試験が行なわれる予定である。

縦軸型風力発電装置は、日本飛行機が航空機メーカーとして培ってきた設計製造技術を活かして開発した小型の風力発電装置である。受風面を風上に向ける必要がなく、風向変動による効率低下がない、機構が単純で信頼性が高い、発電部が低い位置にあるので保守が容易、翼端速度が低いため騒音が少ない、などの特長があり、ビルなど建物の屋上や公園、駐車場、港湾など都市部での設置に適している。

